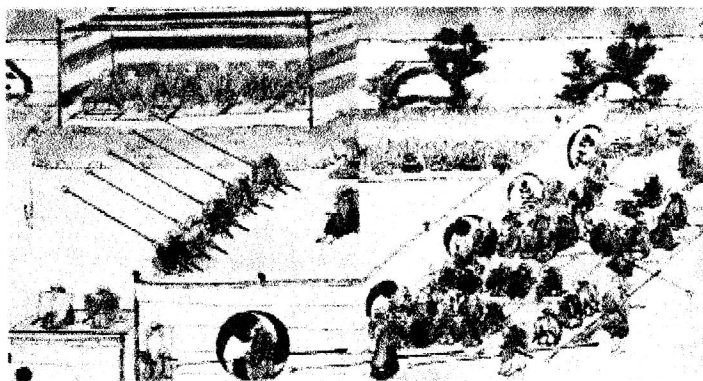


# せんになんどうしん 千人同心



郷土調練（極楽寺本『桑都日記』）

とくがわいえやす えど  
徳川家康は、江戸へてきが入っ  
てこないように、八王子に武士団  
をおいて、甲州街道の見はりを  
させました。これが千人同心のは

じまりです。同心とは、江戸幕府の下級役人をいいます。100人の組が10組あって、千人になることから、千人同心といわれました。組のかしらは、現在の千人町周辺に住み、同心たちの多くは、村に住んで農業をして生活をしていました。同心たちの主な役目は、家康をまつる日光東照宮の火の番（見回りや消火活動をおこなう）でした。他にも、幕府から命令があると、出動しました。千人同心の中には、学者や、医者として有名な人もたくさんいました。

**ゆうぶつ しらぬか  
勇払・白糠**

寛政12年（1800）、千人頭・原半左衛門は、弟の原新介とともに、100人をひきいて蝦夷地（今の北海道）へ移り住みました。新介は勇払（今の苫小牧市）にとどまり、半左衛門はさらに進んで白糠へ。かれらは土地を開墾して農業をしながら、蝦夷地の東海岸の警備や道路を作る工事などをしました。

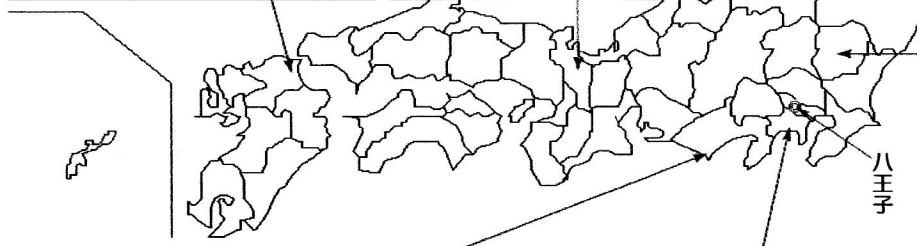
しかし、きびしい冬の寒さに、何人もの犠牲者が出て、この計画は中止になりました。

**こくら  
小倉（今の北九州）**

慶応2年（1866）、長州藩との戦争のために出兵。

**きょうと  
京都**

文久3年（1863）  
将軍のお供で上京。



**しずおか  
静岡**

明治維新（1868）後、徳川氏にしたがって移住。

**よこはま  
横浜**

外国との貿易のため、幕末に開港した横浜の警備。

**にっこう  
日光**

日光には徳川家康をまつる東照宮があります。ここは江戸幕府にとってとても大切なところでした。この東照宮を火事から守るため、50人の千人同心が、半年交代で単身赴任していました。千人同心の日光火の番は1652年から1868年までの216年間続きました。